医療連携
# つつじ
第　3　号
平成15年2月1日

発行　社会保険中央総合病院　新宿区百人町3－22－1
http://www.shahochu.com/

医療連携室TEL＆FAX　03－3364－0366

## 内科－糖尿病内分泌科紹介

社会保険中央総合病院
内科部長　大村　昌夫

いつも当院の診療へ御支援、御協力いただきまして有り難うございます。

内科・糖尿病内分泌科では、生活習慣病の代表的疾患である糖尿病と内分泌（ホルモン）疾患を中心に、高脂血症、高尿酸血症など、幅ひろい疾患の診療を担当しております。

糖尿病の診療におきましては、食事指導や生活指導が重要であることは皆様御承知の通りですが、実地診療上その指導には多くのスタッフと時間が必要となります。当科では、栄養課、薬剤部、看護局が綿密に連絡しあい、患者様へのきめ細かい御指導を心掛けておりますので、患者様の御指導でお困りの場合がございましたら御相談下さい。また当科では通常の糖尿病の入院以外に、軽症糖尿病患者様を対象とし短期間で糖尿病の教育と合併症の早期発見、治療方針決定を行なう一週間の糖尿病教育のクリティカルパス入院も実施しており、あわせて御利用下さい。

糖尿病診療では、血糖コントロールのみならず各種合併症の診断治療に多くの診療科の横断的協力が必要です。当院では、つつじ第2号で御紹介申し上げました眼科による糖尿病性網膜症の診断から光凝固療法、硝子体手術、腎臓内科での糖尿病性腎症の診断から透析治療、循環器内科による冠動脈疾患の診断からインターベーション、心臓血管外科によるバイパス手術、皮膚科、整形外科と連係したdiabetic footの治療など、糖尿病から生じる各種合併症に幅広く対処しうる診療体制をとっており、合併症の治療でお困りの際も御相談下さい。

内分泌疾患は日本医師会の生涯教育シリーズ-59「内分泌疾患診療マニュアル」にも述べられていますように、一般症状にかくれた頻度の多いcommon diseaseであり、有病率が一般人口の10%をこえる甲状腺疾患はもとより、高血圧症の原因の10%近くをしめる副腎性高血圧症、下垂体疾患、副甲状腺疾患などの診断治療を行っています。また内分泌疾患の診断に不可欠なRI検査、副腎静脈採血、海綿静脈洞採血などの特殊検査も放射線科の協力で行なっておりますので、内分泌疾患の診断、検査、治療にお困りの場合は当院の内分泌学会専門医にお気軽に御相談いただければ幸いです。

# 診療科紹介

## 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長
石橋　敏夫

### 急性咽喉頭炎とめまいの診断－ここにご注意ください

いつも患者様をご紹介いただきありがとうございます。日頃、患者様をご紹介いただいている急性咽喉頭炎とめまいについて、耳鼻咽喉科の立場からみた二、三の点について述べさせていただきます。

① 急性咽喉頭炎

急性咽喉頭炎はありふれた病気ですが、ときに抗生物質を投与しても軽快しないとか、症状が増悪していく症例をご経験ないでしょうか。このような症例の中には扁桃周囲膿瘍や急性喉頭蓋炎があり、時に外科的な処置が必要になる場合があります。扁桃周囲膿瘍は扁桃の裏側に膿瘍を形成する病気で、視診上、扁桃周囲の膨隆がみられ、通常、開口障害を伴います。適時に、切開排膿が行われないと頚部膿瘍を形成し、重篤になることがあります。

急性喉頭蓋炎は、喉頭蓋を中心とした咽喉頭部の急激な浮腫が特徴で、激しい嚥下痛、吸気性喘鳴を伴う呼吸困難がみられ、発症から数時間から２４時間で気道閉塞をおこすことがあります。私どもは、直ちに患者様に入院していただき、抗生剤とステロイドの点滴し、頻回に喉頭所見を観察し、必要に応じて緊急気管切開を行っております。最近、上気道感染症の主な起炎菌であるインフルエンザ菌と肺炎球菌の耐性化が進んでいるせいか、今後、このような急性咽喉頭炎は増加していくものと思われます。

②めまい

めまいも日常診療でよくご経験されている疾患ではないでしょうか。耳鼻科でとりあつかうめまい疾患は、主に末梢前庭系のもので、メニエール病、突発性難聴、前庭神経炎、良性発作性頭位眩暈症などがあります。メニエール病は内耳の内リンパ水腫によるものとされ、めまい発作が反復し、難聴、耳鳴などの蝸牛症状が発作に随伴するのが特徴です。良性発作性頭位眩暈症は内耳の半規管内結石症によるとされ、特定の頭位や体位変換時にめまいが誘発されます。めまいの持続は１分以内で、難聴は伴いません。

当院では、脳外科医、内科医とも密に連絡をとりあって、末梢性から中枢性のめまいの患者様に対応する体制をとっておりますので、めまい疾患の診断治療でお困りの際はお気軽にご相談ください。また、直りにくい急性咽喉頭炎につきましても、緊急入院に対応させていただいておりますので、お声をかけていただけると幸いです。